

特集 森と木の価値を活かす



循環型森林ビジネスの加速

「森林」はCO₂吸収機能のほか、生物多様性保全、水源涵養、土壌保全、土砂災害防止など、多様な公益的機能を有しています。当社グループは、このような森林の公益的機能を保ちながら木材資源を永続的に利用するために、保護林と経済林とのゾーニングをしっかりと行い、適正な管理のもと持続可能な森林経営を国内外で進めています。

「循環型森林ビジネスの加速」を目指して

森林ファンドの組成

長期ビジョンでは森林分野の柱に「循環型森林ビジネスの加速」を掲げています。「NeXT FOREST」のノウハウや森林ファンドの仕組みを利用し、世界における当社の森林保有・管理面積を2030年までに50万haまで拡大させる計画です。これによりCO₂吸収量を増加させ、他社と社会のカーボンオフセットに貢献し、持続可能なビジネスを実現します。森林ファンドに組み入れる資産規模の目標は2030年までに1,000億円、関連投資は2024年までに120億円を予定しています。

インドネシアでマングローブの保全事業開始

住友林業は2022年12月、インドネシア・西カリマンタン州の9,738haのマングローブの森林を保有・管理するBINA OVIVIPARI SEMESTA社を完全子会社としました。世界的にも貴重な生態系であるマングローブを保護林として適切に管理・保全することは、CO₂排出の削減につながります。マングローブ保全事業を通じて



マングローブの森林



2030年 目標	森林ファンド運用資産規模	1,000億円
	森林保有・管理面積	27.7万ha ▶ 50万ha 2021年12月末(長期ビジョン策定時点)
投資計画	2024年まで 森林ファンド関連投資額	120億円

ブルーカーボン^{※1}クレジットの創出を目指すとともに、泥炭地や熱帯林を含めた広域的な生態系保全事業に取り組みます。

^{※1} 2009年に国連環境計画(UNEP)によって命名された海草藻場、海藻藻場、湿地・干潟、マングローブ林の海洋生態系に取り込まれた炭素のこと。取得したマングローブのブルーカーボンは約6,600万t-CO₂と推計されます。

(株)IHIと合併会社(株)NeXT FOREST設立

2023年2月、(株)IHIとの合併会社(株)NeXT FORESTを設立し、当社が構築した熱帯泥炭地^{※2}の管理技術と、(株)IHIの持つ人工衛星やドローンを活用した観測技術を組み合わせることで、熱帯泥炭地を適切に管理するコンサルティングサービスを開始しました。森林や土壌でのCO₂吸収量や炭素固定量を正確に測定し、自然資本の価値を適切に評価することで質の高いクレジット創出に取り組んでいきます。

^{※2} 植物の遺骸が水中で分解されずにできる泥炭が堆積した土地。地下水位が下がり乾燥すると、炭素を多く含む泥炭が分解・消失するだけでなく非常に燃えやすくなるため、地下水位管理が極めて重要。



森林ファンド実現へ

2022年10月に森林アセットマネジメント事業会社 Eastwood Forests 社を米国に設立しました。同社が組成する森林ファンドを通じて森林資産の運用を行い、木材販売等から得る利益と森林が生み出すカーボンクレジットを出資者へ還元し、社会全体のカーボンオフセットに貢献してまいります。国内企業を中心としたニーズの把握や北米・アジア・オセアニアでの森林のソーシングを進めており、2023年に新会社を通じた第1号ファンドの森林ファンド「Eastwood Climate Smart Forestry Fund I」を組成しました。

^{※3} 本記事は本ファンドについて参画企業を勧誘するものではありません。



ウッドチェンジの推進

「木材」分野では、木材が持つ炭素固定機能など多様な価値を社会に訴求しながら、他材料から木への代替促進(ウッドチェンジ)を進めています。また、木材コンビナートの設立を通して、木材の付加価値最大化と国産材の利用促進を図っています。

2030年 目標	木材コンビナート国産材使用量	100万m ³ /年
	投資計画	2024年まで 木材コンビナート投資額
		200億円

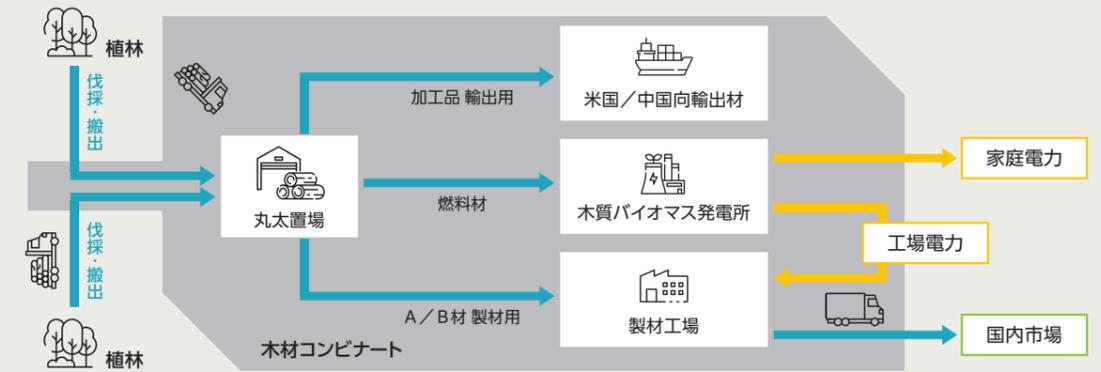
木材コンビナートが果たす役割

日本の住宅(木造軸組構法の場合)は、横架材の90%、柱材の50%を輸入材に依存しています。構造材・原材料の過半を輸入に依存するリスクを分散・低減し、安定したサプライチェーンを実現するため、国産構造材の供給体制構築に重要となるのが木材コンビナートです。

木材コンビナートは、用材利用から、エネルギー利用、ケミカル利用まで、価値を高める木材活用を行い、長期の炭素固定を実現するものです。具体的には、持続可能な森林から出材されるすべての原木を余すことなく使い切るカス

ケード利用ならびに低級材や端材の価値の最大化を実現するために、木材加工事業などの立ち上げを進めています。戸建住宅・非住宅建築・バイオケミカルなどの各分野で木材由来素材への代替を促すことで循環型ビジネスを構築し、森林の価値向上と国産材の活用拡大を目指します。各エリアで事業パートナーと連携し、機能を相互補完することで、ウッドサイクルを実現し、日本の木材自給率の向上と地域社会への貢献に寄与します。

木材コンビナートの概要



木材コンビナート設立に向けて



引用：志布志港PR動画「世界に広がる志布志港」より (YouTube「鹿児島県公式チャンネル」)

2022年2月、当社と鹿児島県志布志市は、新工場建設に向けた立地基本協定を締結しました。現在、輸出されている丸太を加工し、住宅用だけでなく、非住宅向け建築物にも使用できる高強度の構造材を製造できる工場の建設を目指し、事業計画の策定や設備の選定などを進めています。今後も、木材資源が豊富なエリアを中心に、全国複数か所でプロジェクトの検討を進めていきます。